認知症まちづくり
地域円卓会議 in 南風原

認知症当事者の地域社会での共生のために、

改めて考える認知症啓発のあり方

実施報告書

日　　時：　2023 年 12 月 12 日（火）18:00-21:00（受付開始 17:30-）
場　　所：　南風原町総合保健福祉防災センターちむぐくる館　ホール
（沖縄県島尻郡南風原町字宮平 697 番地 10）
主　　催：　沖縄認知症見守りコンソーシアム
（公益財団法人みらいファンド沖縄、公益社団法人沖縄県地域振興協会）
共　　催：　社会福祉法人 南風原町社会福祉協議会
協　　力：　NPO 法人まちなか研究所わくわく

舞い上がれ 社会を変える みんなの力
休眠預金を活用した事業です

報告書作成
NPO 法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

【報告】認知症まちづくり地域円卓会議 in 南風原

■日　　時：2023 年 12 月 12 日（火）18:00-21:00
■場　　所：南風原町総合保健福祉防災センター
　　ちむぐくる館　ホール
■着席者数：8 名（論点提供者、司会、記録者含む）
■参加者数：45 名（自治会等地域組織、福祉・医療機関等）
■主　　催：沖縄認知症見守りコンソーシアム
　　（公益財団法人みらいファンド沖縄、
　　公益社団法人沖縄県地域振興協会）
■共　　催：社会福祉法人 南風原町社会福祉協議会
■協　　力：NPO 法人まちなか研究所わくわく

論点提供　**桃原 徹貞 氏**
（社会福祉法人 南風原町社会福祉協議会 福祉サービス支援係長）

認知症当事者の地域社会での共生のために、改めて考える認知症啓発のあり方

「認知症との共生」が認知症基本法にもうたわれる昨今ですが、地域社会において、当事者が常にサポートされる側、地域社会はサポートする側という構造や気負いが、「地域社会での役割」を望む当事者の社会参画を阻害しているのではと感じています。今回の円卓会議では、この問題をこれまでの認知症普及啓発事業の視点から捉え直し、これまでの啓発事業の評価とこれからの啓発のあり方をみんなで考えます。

※共生とは、認知症の人が尊厳と希望を持って認知症と共に生きる。 または認知症があってもなくても同じ社会で共に生きるという意味。

センターメンバー

桃原 徹貞
南風原町
社会福祉協議会
福祉サービス
支援係長

真謝 雅代
南風原町
保健福祉課
高齢者福祉班
班長

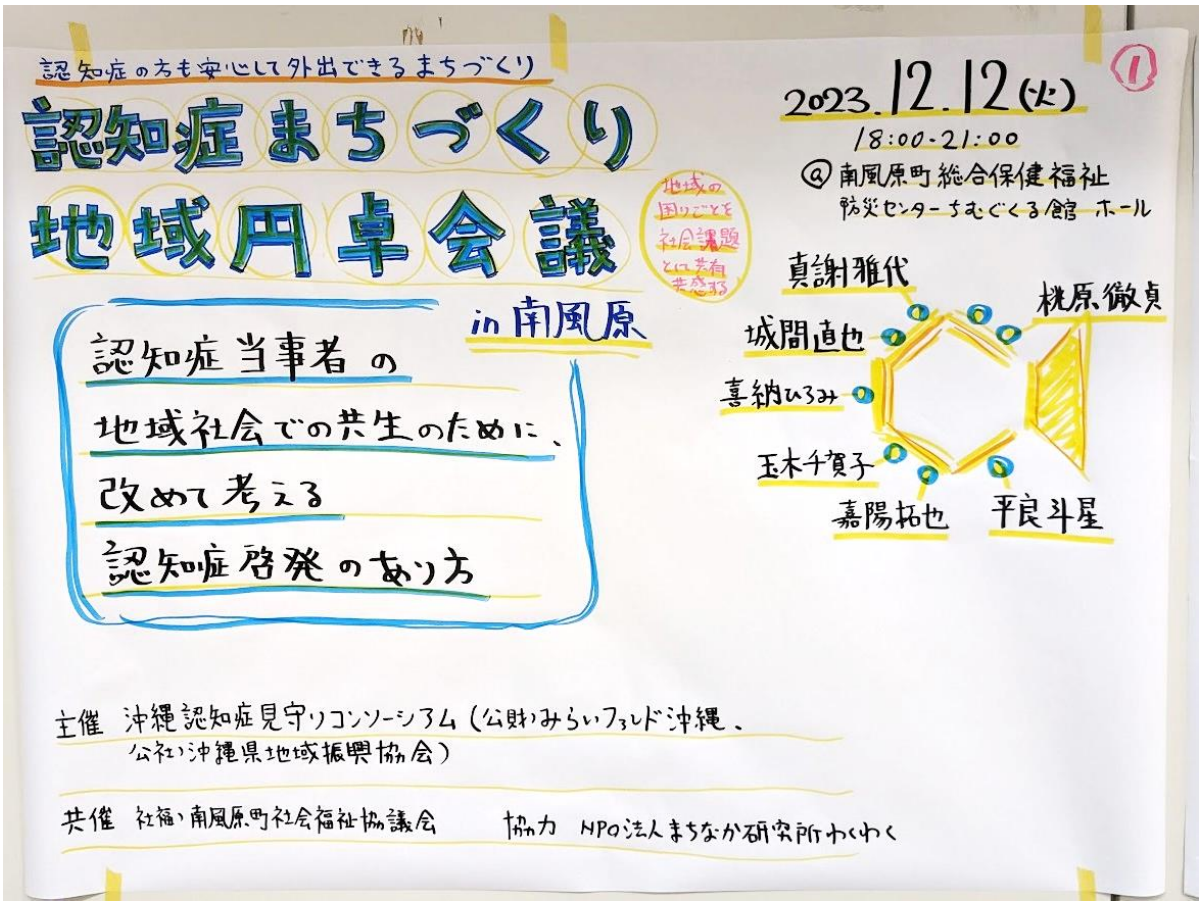
城間 直也
医療法人社団輔仁会 嬉野が丘サマリヤ人病院相談室
精神保健福祉士・社会福祉士

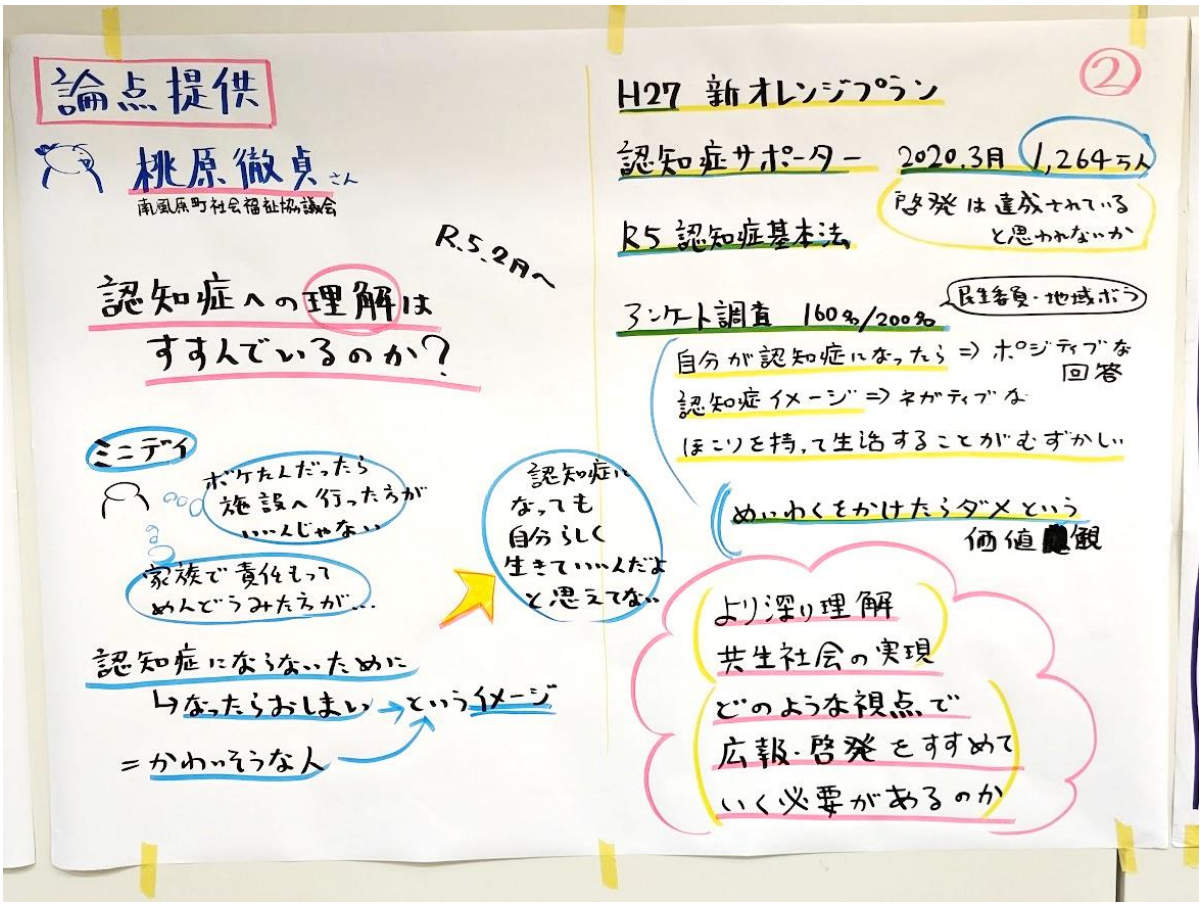
喜納 ひろみ
公益社団法人認知症の人と家族の会
沖縄県支部
南部地区会
代表世話人

玉木 千賀子
沖縄大学
人文学部
福祉文化学科
教授

嘉陽 拓也
琉球新報社
編集局暮らし報道グループ
厚生担当

＜板書記録＞


認知症の方も安心して外出できるまちづくり
認知症まちづくり
地域円卓会議
in 南風原
①
2023.12.12(火)
18:00-21:00
@南風原町総合保健福祉
防災センター ちむぐくる館 ホール
地域の困りごとを社会課題として共有共感する
認知症当事者の
地域社会での共生のために、
改めて考える
認知症啓発のあり方
真謝雅代
桃原徹貞
城間直也
喜納ひろみ
玉木千賀子
嘉陽拓也
平良斗星
主催 沖縄認知症見守りコンソーシアム（公財）みらいフォルド沖縄、
公社）沖縄県地域振興協会）
共催 社福）南風原町社会福祉協議会
協力 NPO法人まちなか研究所わくわく


論点提供
桃原徹貞さん
南風原町社会福祉協議会
R.5.2月へ
認知症への理解はすすんでいるのか？
ミニデイ
ボケたんだったら施設へ行ったらがいいんじゃない
家族で責任もってめんどうみたらが…
認知症になっても自分らしく生きていいんだよと思えてない
認知症にならないために
↳なったらおしまい→というイメージ
＝かわいそうな人
②
H27 新オレンジプラン
認知症サポーター 2020.3月 1,264万人
R5 認知症基本法
啓発は達成されていると思われないか
アンケート調査 160%/200%
民生委員・地域ボラ
自分が認知症になったら ⇒ ポジティブな回答
認知症イメージ ⇒ ネガティブな
ほこりを持って生活することがむずかしい
めいわくをかけたらダメという価値観
より深り理解
共生社会の実現
どのような視点で
広報・啓発をすすめていく必要があるのか

真謝雅代 さん

南風原町 民生部 保健福祉課

③

みんなから仲間はずれにされるのがこわい。

家族が認知症だと周りの人に言えない。

ある家族の声（10年前）

言いたいけど言えない。でも自分たちだけでは支えきれない

どれだけ変っただろうか。

40,457人　19.7%（高齢化率）

7,968人

65〜74才 4,408人　75才〜 3,560人

キソシッカンのコントロール 重要

糖尿病
高血圧

認知症で治療中の方

医療施設多い

入院している人多い → 介護認定うけなくてよいので。

重症化している人が多い？

生活自立度 IIa 道にまよう

IIb ⇒ 県より多い
IIIa
IIIb

IIa 以上でみると県と同じくらい

何を意味しているだろうか。

高齢者の生活に関するアンケート

認知症ではないか。→ 相談したことない [redacted]

自分が 20.4%　64.1%

家族が 11.3%　37.3%

城間直也 さん

医療法人 社団 輔仁会（ホジン） 嘉野が丘サマリタン病院 相談室

④

専門医療相談 1972件

診断後支援 3036件

- 本人からの相談 増えている
- 一番多いのは家族
- かかりつけ医からの相談も多
- 介護事業所から
- イサン相続・免許更新など

525件 初診

受診に至る

認知キノウの検査をキョヒする人

精神科を受診することへの反応

当事者のライフサイクル、ADL・IADL

家族

認知症という疾患から、「共生」を考える

- 当事者の介護・医療・住宅 経済・財産
- 思いえがく人生設計と異なっていく

認知症へのイメージ（偏見）

病院へ行ったらどうにかなるというイメージ

認知症の前に、睡眠・食事・運動 社会参加。

わかっていてもやらない…。それって、啓発って？

生き方を理解する道中

自己実現が可能な社会

人や地域、社会が人にかかわり、よりそいつづけるプロセス → 時熟

考え続ける

医療・保健・福祉だけでなく、様々な視点から

喜納ひろみ さん

(公社)認知症の人と家族の会　沖縄県支部 南部地区会
代表世話人

⑤

9年前.　沖縄県支部 6つのつどい

南部地区会　毎月第2金

HIO ～ 認知症 ～センター　プロとして. 専門職

若年性認知症

12月定例会

専門職もギクリとする

『自分をぬきにして.
自分のことを決めてほしくない』

『「やさしくしなきゃダメ」といわれると
責められているように感じる』

家族

正しい知識を伝える

身近に学ぶキカイ

家族の会

認知症カフェ
(包括)

(じっくり) 本音を話せる場を

こうしたらいいよ.
楽になる

生活をイジして
希望大使で生きがい
いろいろあったけど.

当事者の方が
生き生き生活を
しているところを見せる

役割があること.

玉木千賀子 先生

沖縄大学人文学部福祉文化学科

共生　誰と誰が共に生きるのか?

認知症の方とかかわることが
一番の啓発

関わりの中で自分のできることを考える

認知症になった私が、ここで生きて
いくために. (自分ごととして) 考える

専門職

意識的に相手の立場に立つ

向きあっているだろうか?
目が自分をむいていないか
この人(相手)の話しをきけているか.

プロセスが社会をつくっていく

嘉陽拓也 さん

琉球新報社 編集局

⑥

認知症当事者の声、きくキカイない
(家族ではなく)

若年性認知症の方のお話はきいている

当事者が語る => 希望のバトン

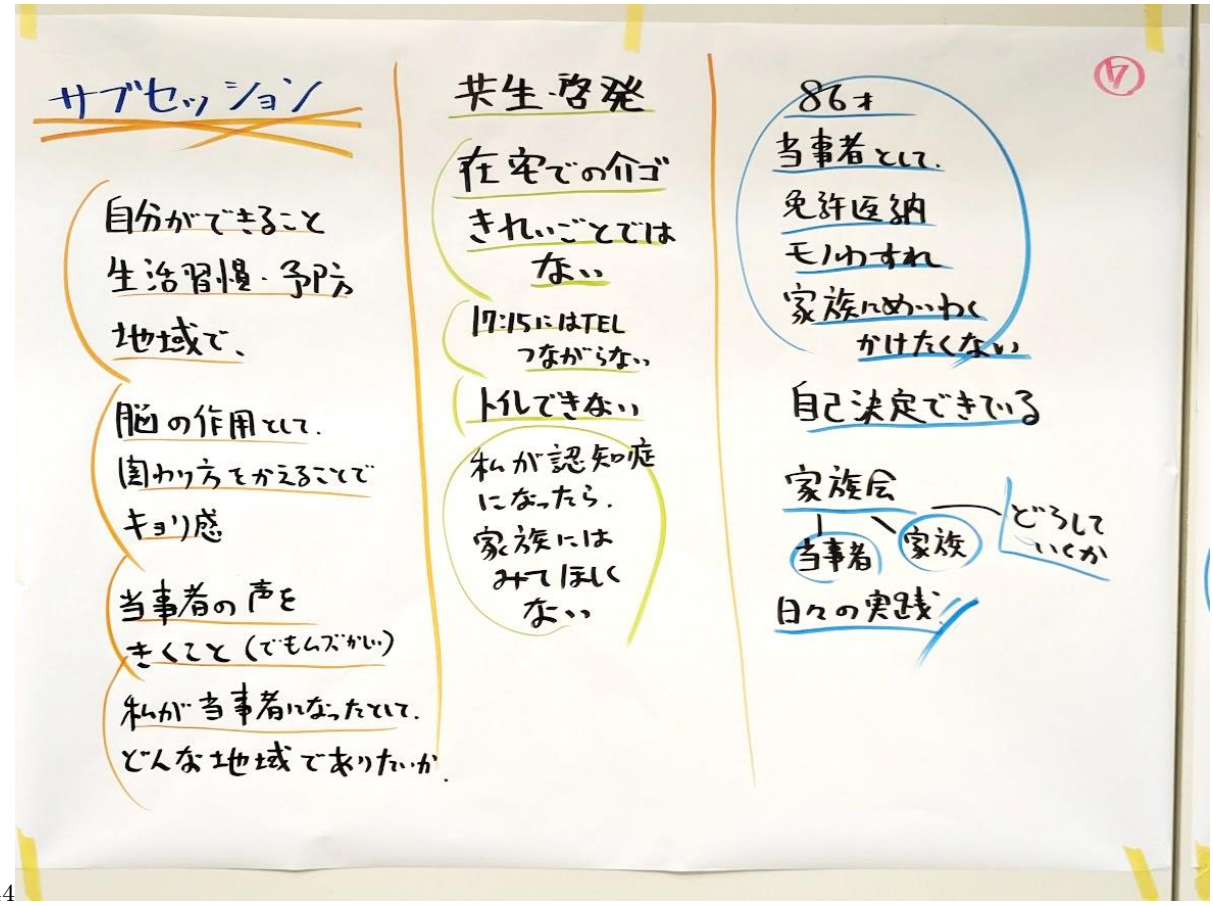
自分の人生をどう決めるか

キョリ感でいてくれる人がいることで
どうかわるか.

ふみこみすぎず、
気にかけてくれる

わングケろうー
と重なること多い

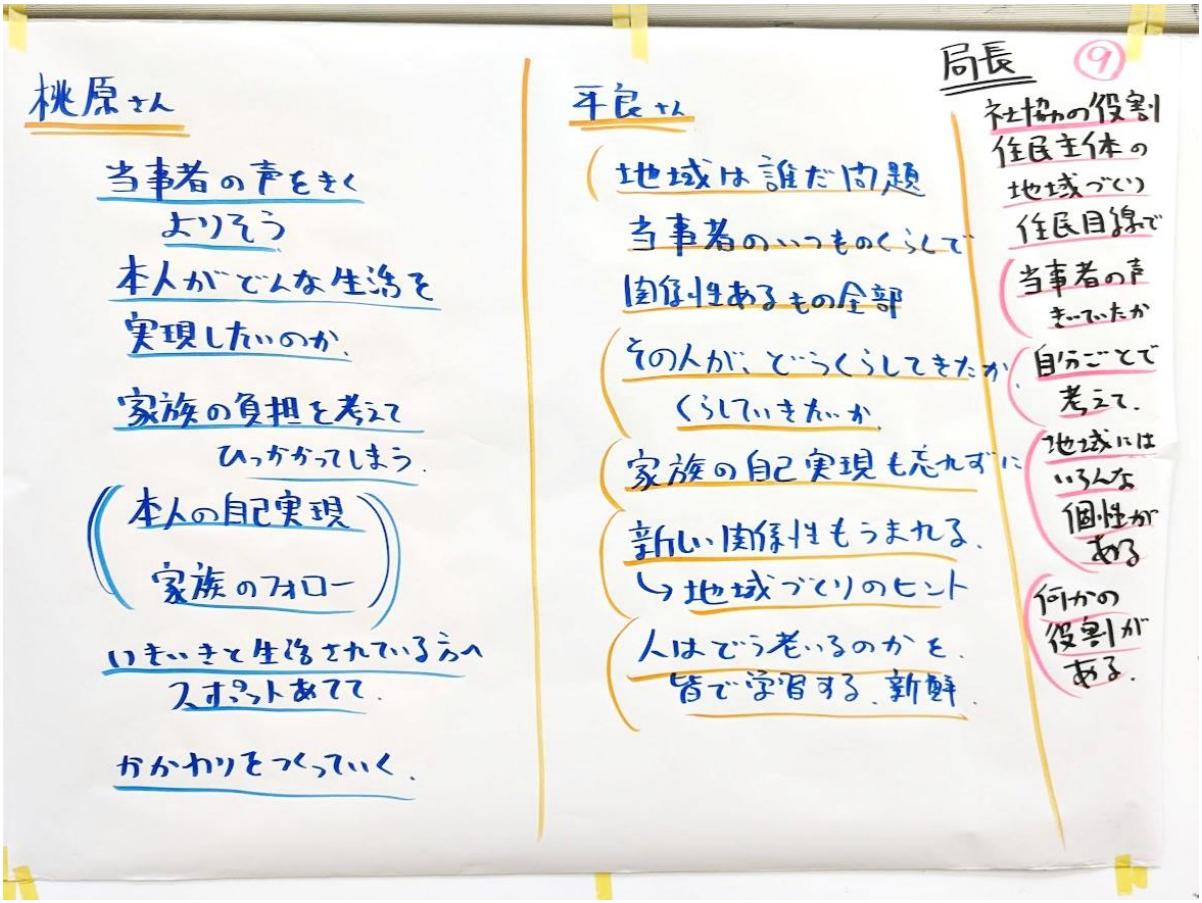
当事者の声を
取材していきたい


⑦
サブセッション
自分ができること
生活習慣・予防
地域で、
脳の作用として、
関わり方をかえることで
キョリ感
当事者の声を
きくこと（でもムズかしい）
私が当事者になったとして、
どんな地域でありたいか。
共生・啓発
在宅での介護
きれいごとではない
17:15にはTEL
つながらない
トイレできない
私が認知症になったら、
家族にはみてほしくない
86才
当事者として、
免許返納
モノわすれ
家族にめいわくかけたくない
自己決定できている
家族会
当事者
家族
どうしていくか
日々の実践

44

⑧
セッション2
受診の数
日増えている
本人によい質問
しないと
こたえかえってこない
本人は何といってますか？
家族にきく
今の生活で
不自由ないですか？
気になることないですか？
地域が
当事者の自己実現で
できること
本人が安心・安全
を感じれるのは
地域（家）
病院は
日常ではない
訪問すると
生活よく
みえる
できること
少ない
ゆったたくばあ
いごこち
よい
認知症の方も
こられている
ゆったり本
よんでいる
家族の会
地域で
生活している
公表して
ヘルプできる
地域で支えて
くれる
かくすと
ヘルプできない
協力をえられる
地域づくり
関わりながら
何が伝わると
よいのか
子どもたち
お年よりの話を
きくことが
継続的に
その人のもって
いるものを
いただく
関係性が
新たな価値を
うみだす
チエ
おもい
認知症の方が
伝えたいと思っていることを
つかみとる
今やっていることを
地道にやること
大事
3次予防
2次予防
ここ知らない人
多い
啓発
にも
段階が
ある
こども
ノート
脳を理解
することは
人間を理解すること
どう老いて
いくのか
学習
専門職
といっしょに
母子から
つなげて
当事者の話を
きく。
何を
とりあげて
ほしいか
終活

4


桃原さん
当事者の声をきく
よりそう
本人がどんな生活を
実現したいのか
家族の負担を考えて
ひっかかってしまう
本人の自己実現
家族のフォロー
いきいきと生活されている方へ
スポットあてて
かかわりをつくっていく
平良さん
地域は誰だ問題
当事者のいつものくらしで
関係性あるもの全部
その人が、どうくらしてきたか
くらしていきたいか
家族の自己実現も忘れずに
新しい関係性もうまれる
地域づくりのヒント
人はどう老いるのかを
皆で学習する 新鮮
局長 ⑨
社協の役割
住民主体の
地域づくり
住民目線で
当事者の声
きいていたか
自分ごとで
考えて
地域には
いろんな
個性が
ある
何かの
役割が
ある

➢ 今後のアプローチの方向性（提案）

1）認知症になったら「人生おしまい」という絶望感は、これまでの当事者不在の啓発のあり方に課題があったと考えられる。これからの啓発のコンセプトは、認知症の当事者の人と関わり、その方々が「じぶんらしく」いきている姿をみること。

2）啓発は、様々な入り口があることがわかった、包括支援センター・病院におおける相談や診断・学校等あらゆる窓口やタイミングで認知症当事者の声・体験を届けることが大切。その前提として当事者の声をどう聞いていくか相手の立場に立った「やりとり」の手法も求められている。

3）認知症と地域づくりというテーマにはどうしても網羅や統治的ルールをイメージしがちだが、過去当事者が関わってきたつながり（社会性）の確保を最低限の条件にしていき、家族の自己実現も考慮しながら設計していけば決して実現不可能な絵空事にはならない。

■参加者によるサブセッション

認知症当事者の地域社会での共生のために、
改めて考える認知症啓発のあり方

（参加者記載の原文をそのまま記載している為、事実と異なることがあります。グループ毎に①、②・・・と記載）

①

〇昔は、コミュニティーで何かあれば情報共有できる！
　理解、安心できる関係性があった→そのような場が共生

〇本人、家族は今の状況に今、今后どうありたいか？
　再構築していく必要がある

●認知症を知ってもらいたいというよりその人自身を知ることを大切に一緒にこれからと今を考えて欲しい（家族の受容のサポート）
　受け入れ認めたくないけど自分たちで向き合わないと…→その課題を支援要

●認知症とかでなくても、自分が困った時、誰に？どこに？助けを求めていいか？日常の中に気軽に互いを認めあえる居場所、関わり結びができて欲しい。

②

専門的なことが多くて分かりづらかった、長かった
共生できる社会ということで参加呼びかけしたが、反応がいまいちだった
玉木先生のお話しをもっと聞きたかった
自信が認知症になった時の勉強になると思った
（早期発見する方法とは？）

・テーマの啓発
　良くないイメージ、偏見
　「予防」のイメージが強い
　認知症になっても良いんだよ、
　認知症になっても変わらず
　ゆんたくしよう！！

③

・ライフストーリーを聞く、というのを学生がやったことがあった。
　→本を作ったが、その関わりから学生と地域の人のつながりができた。気にかけるようになり、さりげない気づかいが生まれた。
・気づき、つながりのバトンタッチ
・子どもたちのあいさつ、必要だけど…
・夫のおばあちゃんが、家ぞくの不幸を期に認知症に…。
・周囲に数人いたが、一人にしてしまうと進行させてしまっていた。
・自分の生活もあったので、そうせざるを得ない状況、今は変わったけど。
・声かけ合う、あいさつし合う、ゆるいつながりが大切
・ゆうあい訪問というのがあり、気になれば声かけをしている（民生委員）
・連けいして地域の人をみている
・一人で住んでいる人の見守り
・公的サービスへつなげる、支えるアプローチも必要

④

・災害時の対応→サポートどのように
・サポータ講座おこなったが
・認知症も様々、幸せな方は穏やか
・地域の方にもいてはいかいも見た
・対応はイラだって心痛かった
・ある人は酒のんで自由、日課は散歩
　→周りに理解ある地域、つながりある
・家族共に障害あるが認知症の方元気、（地域の方とのネットワークあるようなないような）

⑤
１自己紹介 OK
２負担
Ⓐ
色々な視点があった
ミニデイ利用者が途中から認知症に
なった後に、本人、いきずらくなる
（参加しなくなる）地域でみない、声かけすれば良かった
→声かけの大切さ
Ⓑ
当事者の方に普通に接するのが大事
⇒関わりを持ちつづける
Ⓐ
認知症でもさまざまな状態があり
対処の方法が分からない
それで話しかけずらい
認知症の方がいたらありのままで受けとめる（入口）ようにしている
認知症の方が今後増えるので、見た目がわからない→町中で生活している
コンビニ→買い物
銀行→出金
そこで働いている人の理解
今後どのように対処すればいいのか気になる
気づけるような対処
見た目は元気にみえる
認知症の方のレベル、軽い方もいるがしんこうしている方もいる
→家族の負担も心配

⑥
・自分たちの身近にいるか。
・当事者になってから、じゃなくて事前から後回しにせず、学ぶ。
・「認知症」というワードの強さ。

⑦
①3.11
防災ブースでとなり近所の方がそれとなく見守ってくれていた
②おばあちゃん⇔マゴ
Dr 使って、伝える
お母さんの言うことは聞いてくれる
地域の包括が動いてくれてた
今はだいぶ良くなった
日常が日々、進行―少しずつがむずかしい、声かけもむずかしい

⑧
・家族会をどう開催していくかが課題
家族、当事者、一緒に？一緒は少し難しい
場所はサポートしてくれる人がいないと
8 月くらいから開催している
必要としている方に情報を伝えたい
おちこんでいた方が元気になる、対応が変わる実感があった
日々対応している実践が一番情報として生きる
各地域で必要としている方の集まりができればよかったーと思う
・当事者として考える、そういう視点で考える
科学的、統計的に認知症と考える
免許証の返のう予定、逃げられないように家族に伝えている
・自覚とは？物忘れが多いと感じる
運転で失敗？
客観的に自分を見ることは認知症ではないのでは？
・人身事故を起こしたくない
家族に迷惑をかけたくない
家族に世話をかけたくない
早め介ゴ認定を受けて…）自己決定している

⑨
発表
チーム①
・自分でできること、当事者～整理して、意識づけもつ
・脳の障害をりかいすること大事、キョリ感大事
・私が当事者になったらの視点で道がひらけるのかな？
チーム②
・H24 かいご体験者キレイ事では無ッ！！専門キカン 17:00 しまる
・自分がなったら家族にはみいてほしくな。
チーム③
・当事者の視点で考えるが印象的、めんきょ道無くす
・人身事故おこしたくない、客観みられている
・今、時点で自己決定できている
・家族会のけいぞくかだい、サポート人材
・会が各地域で開催できたら良い
かんそう
そもそも何で参加しんだ？！
母・75→精神症状あり
ワードが動いた！！
・法人で円卓会ギ予定
・町づくり＝福祉に近い
・近い課題ある
・時代毎にその人を救うガイネン
Q.救う為が苦しめてないか？
Q.ケイハツって何のため？
・支援者のエゴ？ソンザイイギ
・達成し続けるしかない
問いつづけること大事
（終活の前を考えること）
・自分の不安で、母視点で考えられていない
・赤ちゃんと逆、めいわくがられる、イヤがられる、ないがしろ何で？
・けいはつは誰をターゲット？当事者発信？
回りの人発信？
誰の主えを元に？
けいはつのあり方考えさせられた

⑩
・今までこんなに難しく認知症について考えていなかった、反省…
・認知症はどの程度から大変なのか
・認知症の人への対応の仕方が周りが分かっていればいい
・認知症の人が活やくできる、参加できる場
・家族がオープンにできる環境があればいい

⑪
アルツハイマーの義父を見た体験者として在宅での介護はきれいごとではない
→365 日 24ｈ
本人がどんどんひどくなる
（トイレもできなくなる）
隣り近所、家族の協力があったから介護できたが、私が認知症になったら家族に見てほしくないと思っている。
（地域の中で共生）

⑫
・他人の事を自分の事として話す
なりきる事は難しいと感じた
・道で困っていても声をかける事が出来るか不安
・若年認知症の方が名札をつけて生活をしている、わかりやすい
声をかけやすい
・認知症の方と接した事がないので、どう接したらいいかわからない

⑬

自分ができること、私、当事者、何ができるか
双方の意識づけ
（生活、地域でのくらし）
予防の大切さ
「私」としてどう生きていく
障がいの受容
親の変化
・ヨナバル、包括、ヨクセイ講座
・薬で治ると思った、初期っていつ？
・役場に〇〇重度
家族メインになってしまっている、悩み
今日あったことか明日には変わる、進んでもいえる、うたがってしまう
診断ついた後で何ができるのか、
認知症、発症障がいの類似性
同じ脳の疾患
脳そのものを理解すること
〇〇でてくると不安（表現型）
それか機能の話だとおとしやすい
何故そうなるのかがみえること
友人、知人、が正しい知識をもっていれば
小グループの学習、地域へ
コツコツ草の根的に
育ってきた環境等によって関わり方は人それぞれ
関わりで探せるくらいの普通のキョリ感
人間　その人の「生物」としての理解

⑭

・よこ文字が多い
・昔は、ボケと認知症
・老人会、婦人会、いそがしい
・がじゅまる会、ゲートボール、ボランティアやっている
・認知症の方をあまりいなかった→1 人いる
・地域で認知症みるのはムズかしい
・近くに認知症の人いる
昔からの友人、仲間じゃないと外に出ない
→社会性もなくなっている
・認知症の方との共生はムズかしい
家族だって毎日のことで大変
・いつか認知症になるのこわい
自分のことができなくなる
1 人ぐらし
イザとなったら施設はいりたくない
・やさしく接するのはムズかしい
365 日はきびしい
・家族は認知症といいたくない
かくす
・親がボケたといわれるとこわい
さびしい
・認知症のしんさつ行かない
・モノわすれならまだいいけど色ボケ、暴力性
やさしくといってもムズかしい！！

認知症まちづくり地域円卓会議 in 南風原
参加者アンケート集計

◆概要

・日時：2023 年 12 月 12 日（火）18:00-21:00

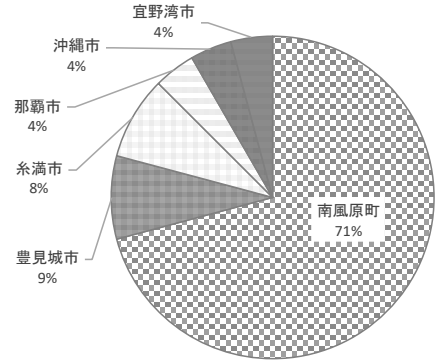
・場所：南風原町総合保健福祉防災センター ちむぐくる館 ホール

・着席者：8 名（論点提供者、司会、記録者含む）

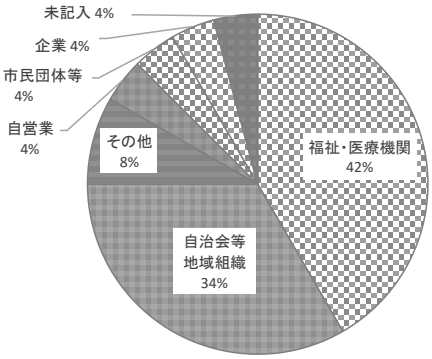
・参加者：45 名（自治会等地域組織、福祉・医療機関）

（アンケート回収 24 名、回収率 53%）

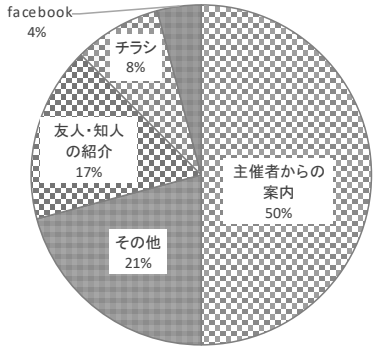
１．どちらから？



２．所属



３．円卓会議はどのように知ったか



４．満足度

平均：4.4（5 点中）

5. 満足	4. 概ね満足	3. 普通	2. あまり満足していない	1. 不満足	未記入
14 名	6 名	3 名	0 名	0 名	1 名

５．満足度の理由

（５．満足）

・ △専門の皆さんでのいろいろ苦心なさっていると感じた。△当事者として自分のこととして考えることも必要という玉城先生の指摘に同感です。

・ ファシリテーターの方が進行がよかった

・ 認知症の理解、けいはつについて考えるという内容であったが、当事者目線当事者として考えること、認知症をもった自分が自己実現していくことを考える。そのことが地域で生きていくことを共に考える。当事者の声をひろうことをこの円卓会議で考えさせられました。

・ 認知症について、いろいろな角度から考えられるようになった。

・ いろんな方（専門的）の貴重なお話しがきけてとてもいい学びができました。

・ いろんな立場、考え方が学べました。

・ 分野の違う方の意見を聞くことができ、今後につなげていきたいと思わせられた。

・ 認知症に携わる専門職、実際介ゴの経験のある方からの実情等リアルな声を聞くことができた。改めて認知症や支援者の役目等考えさせられた。

・ 現在かかえている状きょうにかさなっている

・　後期高齢になり今聞いたこともすぐ忘れ、ボケがひどくなり不安で参加しましたところ、皆さんがこんなに認知症の件で懸命に関わる研究者がいらっしゃることに感謝し、私はこの場で認知症にならない努力をしていくことを決意ス！
・　形式として予備知識を得た上でサブセッションに臨む形に取り組んだ感、思考できた感覚を得られた。
・　立場の異なる視点意見で深みにつながりました。

（４．概ね満足）
・　いろんな立場の方、職種の方のお話しを聞かせていただけました。
・　いろいろな立場の人の意見を聞くことができた
・　資料が見えづらく、話のイメージが難しかった。いろいろな立場の方の話しがあり、意見が聞けてよかったです。
・　各専門職の視点でスライドをもちいて意見を話されていて、ひとつひとつすごく考えさせられた時間になりました。対話方式で考えることで、より自分の中におちて考えることができ、他の円卓会議にも興味をもった。今日の講演会の資料ほしかったです。
・　いろんな立場の方からの視点を知り、勉強になった。

（３．普通）
・　まちづくりに必要な会話がほしかった。
・　専門的な事が多く理解しにくかった（セッション１で）セッション１が長すぎた為おした、共生できる社会という事で参加の呼びかけしたが…？
・　地域、啓発のあり方についての共有や見え方についてあまり深めることができなかったため・・・。

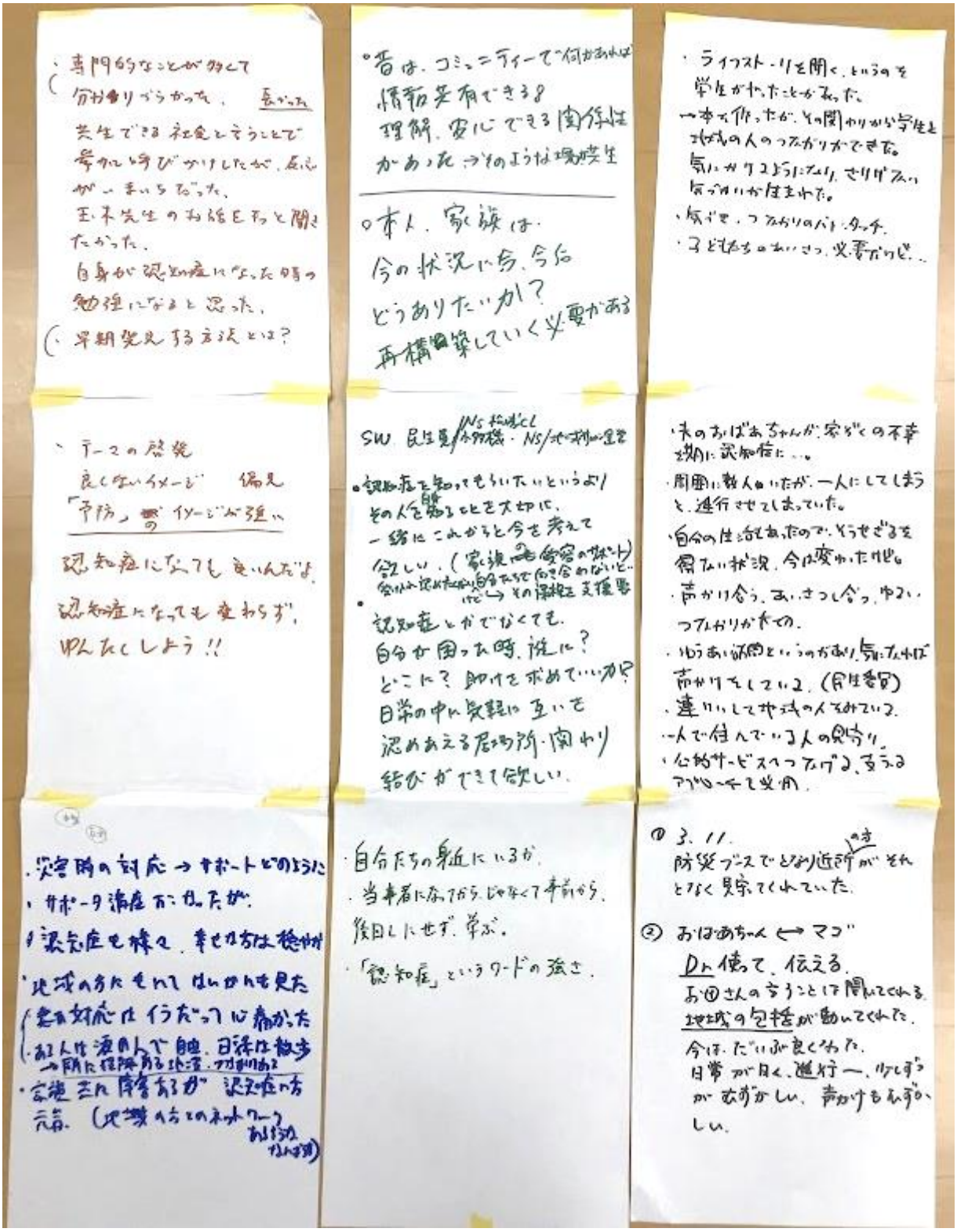
（未記入）
・　認知症の方も安心して生活できる、よりそって生きる

６．円卓会議で印象に残ったこと
・　△家族の会があることうぃ初めて知りました。ますます広めていくよう期待しています。
・　本人がどうしたいのかの視点、ライフストーリー
・　家族ができない部分を地域で考える。けいはつには段階がある。病院でどういったことをするのか、今後を伝える。当事者のストーリーを聞くことから、その姿を学ぶ。関係性から価値を受み出す。
・　どう老いていくのかを学ぶ。
・　認知症にかかった本人が自分のことを決めるのに自分を抜きにして考えてほしくない。
・　ほんとに、当人の立場になって話をきくことが大切であるということばにハットさせられました。
・　妊娠中の脳から
・　当事者と関わることが一番のけいはつになるということ。どれだけ学んでも関わることが大切だと改めて思った。
・　「認知症になること」はもし、でも、かも、でもなく高確率な事。という事が印象的でそうなると、益々認知症に対する知識、イメージ、認識を持つ事の重要性を感じました。
・　当事者を支えるには周りの人一人一人の意識付け、理解が重要。子どもが高齢者の話しをきく機会、ライフストーリーを本にするというのは良いと思う。
・　たいけんされた話が多くあり、現実から目をそらしてはいけないと思われた。
・　様々な課題を抱える人を地域でどのように受け入れていくのか、という考えが会場では共通項となっていた。テーマ設定。難しいですね。

- この事業で大事にしたい価値観を心得てこれからの行動に実行したい！！
- 事業として向き合うと「達成しなければならないもの」を持ち相手をこちらの軸に引き寄せてしまう、という話しは相談の専門職としてギクっとなりました。
- 地域の方に認知症の（方である）ことを知ってもらう～地域でのんびりゆったり過ごすことができる場。言える関係性、地域でやったりできるところ、人と場所も共生になるのかなあと思いました。
- 「何も持たずに認知症の人と関わること」認知症になっても以前と変わらず接する（接してもらえる）地域づくり。へんけんのない社会
- 認知症になったら出来なくなることは増える→理解があることで迷惑になるだろう事が大となるか小と感じるか。脳の発育などのかんてんなど。玉木先生のお話しがわかりやすかったです。当事者意識、向き合う（一過性にならないように）（じぞくけいぞくする）（きょりかん）☆近くのお年よりと子どもたちとの会話や生活の中で、一緒にすごしたいと思うような関係性
- 各専門職の方々の話しを聞いて、地域の方々も少しずつ認知症の病気の事や地域支援について触れる、耳にする機関も増えてきてると思うが、やはりイメージはマイナスな言葉が多くむずかしいなと感じた。実際に介ゴの経験はある方々は、より「認知症に自分はなりたくない」イメージが強く、印象を変えるには？と考えさせられた。
- 当事者と素で向き合う、対等な立場で関わる事で自己決定が出来る。最大の啓発は当事者と関わる事である。子どもと高齢者の交流の場が増えるといいな。子どもに生きている姿、老いていく姿を見せる。
- 各専門職の話しが聞けて良かった。認知症と関わる事で自分が出来る事を見つける。当事者の声も聞いて話し合いに参加。他人の事を自分の事として受け止める。家族の本音を引出す。認知症の会議はポジティブに！！
- 玉城さんの話をもっと聞きたかった。サブセッションがほしかった。病院が最善の場所ではない。(城間) 地域での理解と協力（喜納) 生活できる。子どもが地域の年寄の話を聞く（玉城）
- いろいろな考え方の話がきけてよかった。自分の事として考える。担い手の事を考える。向き合う、相手の事をもきく。※共生出来たらいいけどこえかけぐらいがよい。

（写真）会場の様子

＜サブセッション　記録用紙＞



・ヨニ文字が多い
・昔は、ボケと認知症
・老人会、婦人会…いそがしい
・がじゅまる会、ボランティア、ボランティアボール、やっている。
・認知症の方とあまりいなかった。
↳1人いる。
・地域で認知症みるのはムズかしい

・家族会をどう関係していくかが課題
家族・当事者　一緒に　一緒に
少し難しい
現所はサポートしてくれる人がいないと、
別らしから関係している。
必要としている方に情報を伝えたい。
わらしてでいた方が元気になる、対応が
変わる実感があった。
自分対応している実践が一番情報
として生きる。
各地域で必要としている方の集まりが
できればよかったなーと思うと思う

・近くに認知症の人いる。
昔からの友人・仲間いないと、
外にでない。→社会性がなくなっている。
・認知症の方との共生はムズかしい。
家族だって毎日のことで大変。
・いつか認知症になるのこわい。
自分のことができなくなる。
1人ぐらし。
イザとなったら、施設はいりたくない
・やさしく接するのはムズカしい
365日はきびしい。

・今までこんなに難しく認知症について
考えていなかった。反省…
もっと聞いていればよかった
・認知症はどの程度から大変なのか
・認知症の人への対応の仕方が周りに
分かっていればいい
・認知症の人がくつろげる居場所できる場
・家族がすごしやすい環境があればいい

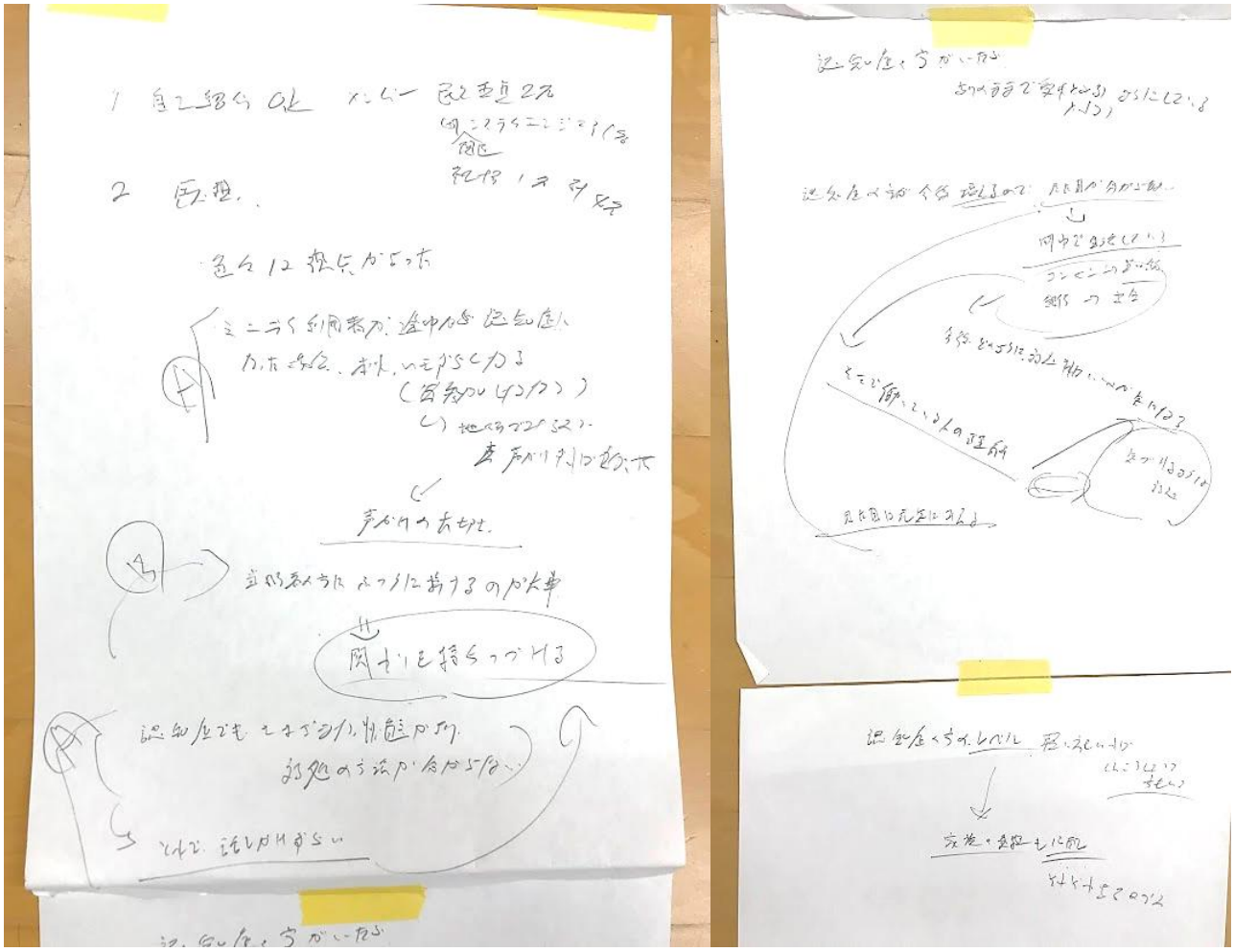
・当事者として考える、そういう視点で考える。
科学的、系統的に認知症と考える。
免許証の返納の決定、世代ちがいにうまく
家族に伝えている。
・自覚とは？物忘れが多いと感じる
運転で失敗？
客観的に自分を見ることは認知症
ではないのでは？
・本人事故を起こしたくない。
家族に迷惑をかけたくない
家族に世話をかけたくない。
(見守り設定を受けて…)自己規定している。

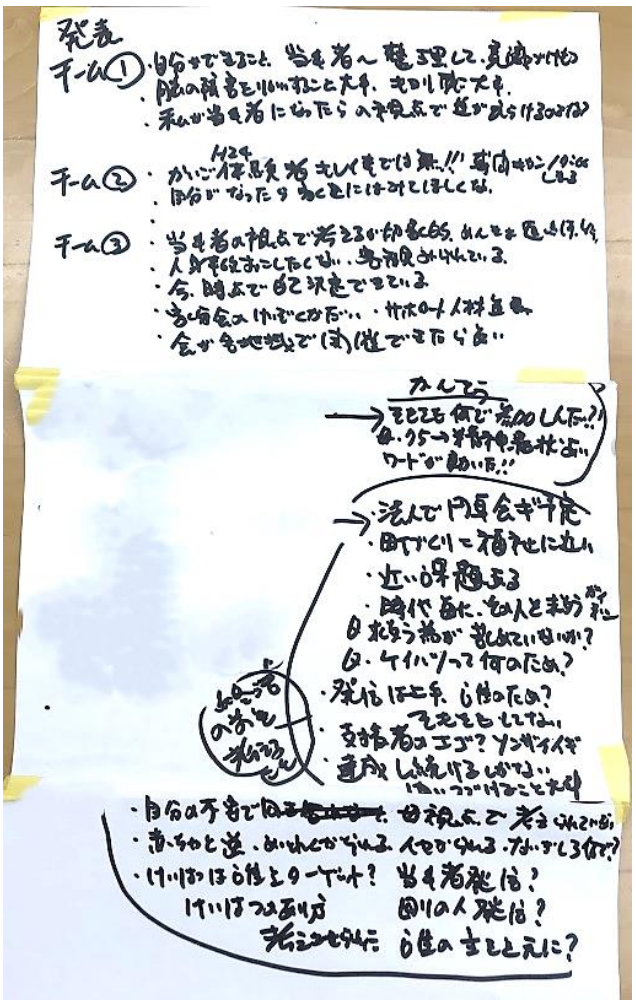
・家族は、認知症といいたくない
かくす。
・親がボケたといわれると、こわい、
さびしい
・認知症のしんさつ行かない。
・モノわすれなら、まだいいけど、
色ボケ、暴力性。

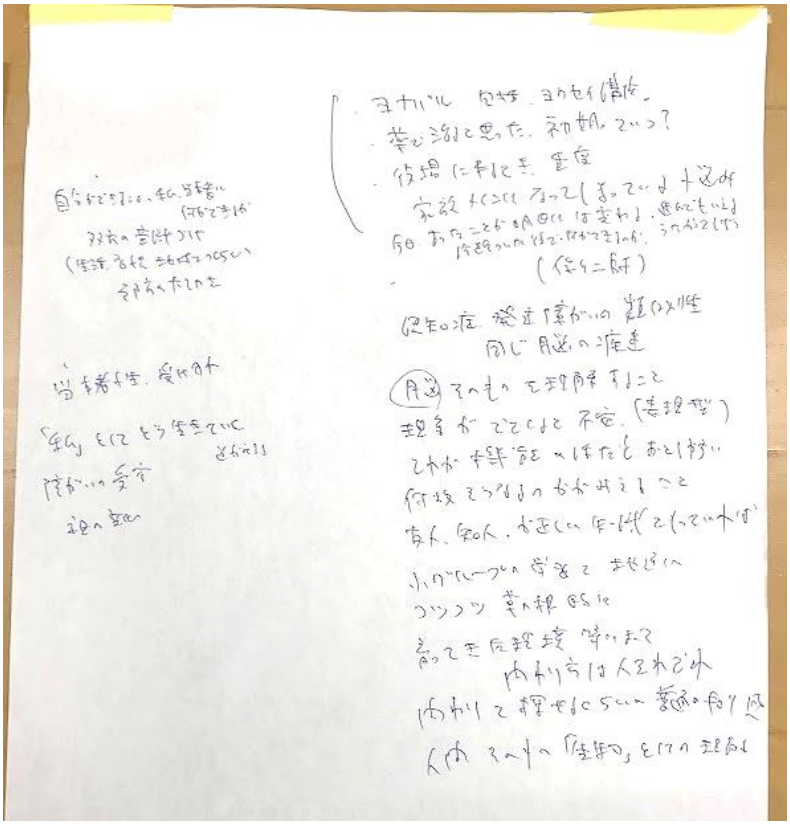
やさしくといっても
ムズカしい!!

アルツハイマーの義父を見た
体験者として
在宅での介護は
きれいごとではない。
本人がどんどんひどくなる
(トイレもできなくなる)
隣り近所、家族の協力があるから
介護できた。
私が認知症になったら
家族に見てほしくない
と思っている。
(ボケ)

・他人の事を自分の事として話す
なりきる事は難しいと感じた
・道で困っていても声をかける事が
出来るか不安
・若年認知症の方が名札をつけて
生活をしている。わかりやすい。
声をかけやすい
・認知症の方と接した事がない
ので、どう接したらいいか
わからない


1 自己紹介 OK
2 反省
認知症
戸がけの声かけ
関係を結びつける
認知症ケアのレベル


発表
チーム①
チーム②
チーム③
かんてら
活人で円頂会ギ発
自分の不安で
当事者の視点で考えるが
自分ができること
当事者の発信?
周りの人発信?
自分の言葉と元に?


ヨカバル
初期
現場に来てみ
実践
月迷
人間 その人の「生活」としての理解